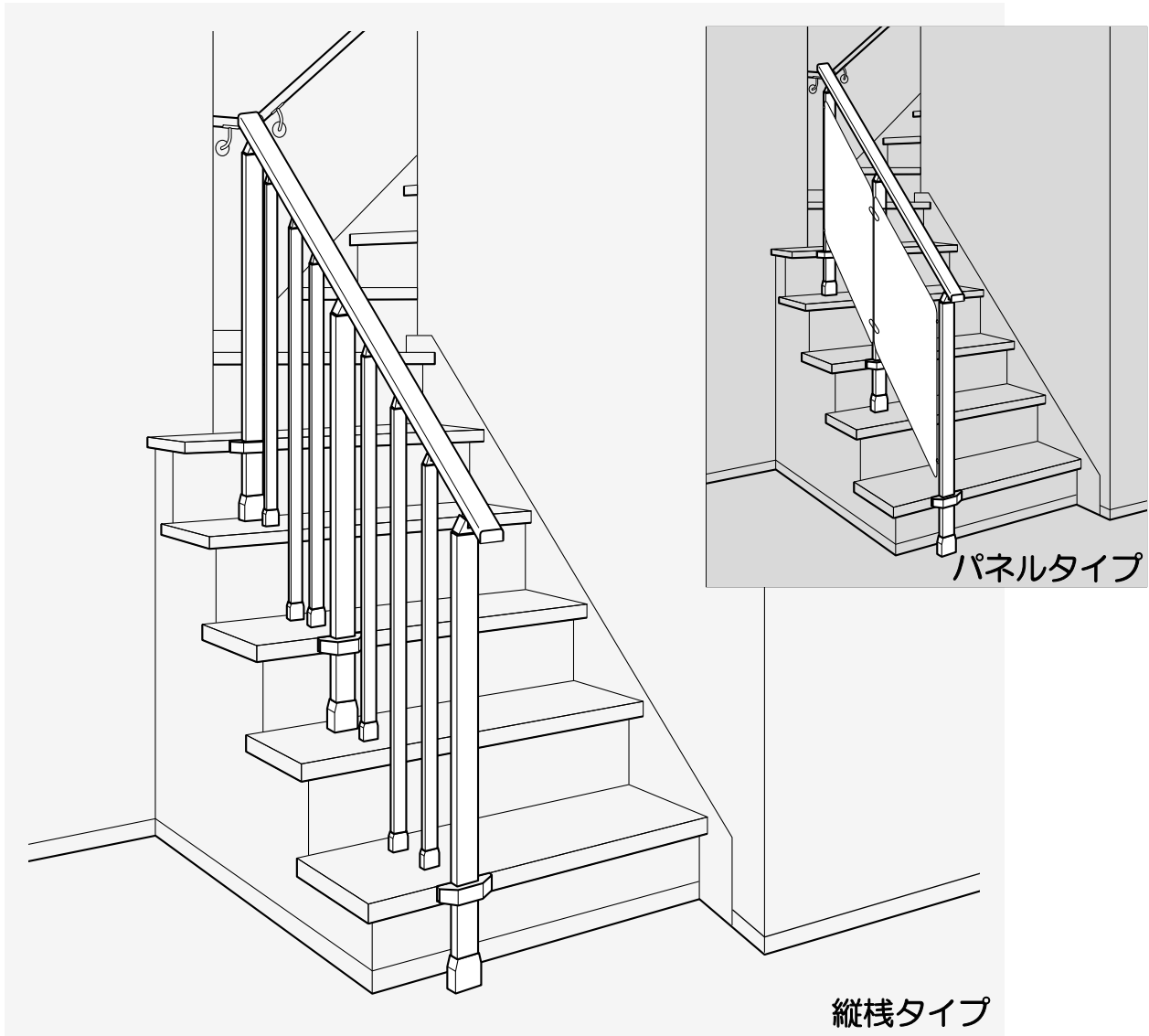


施工後の確認

施工が完了したら、手すりにガタツキがないか、ねじが確実に締結されているか確認ください。
緩みがあれば確実に締め直してください。

オープン階段手すりユニット

<角手摺>階段縦棧タイプ・パネルタイプ



警告

施工説明書本文に出てくる重要警告事項の部分は、施工前に注意深く読み、よく理解してください。

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故及び部材の損傷等、問題が生じた場合は保証しかねますのでご注意ください。

施工前の確認

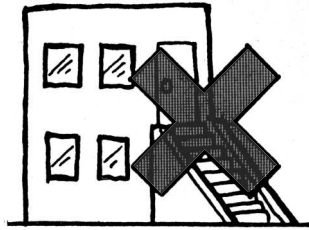
開梱後すぐに部品の損傷および欠品がないかご確認ください。製品取付後の損傷クレームについては保証の対象外となります。(詳細は本書部品構成リストを参照してください。)

安全に関するご注意

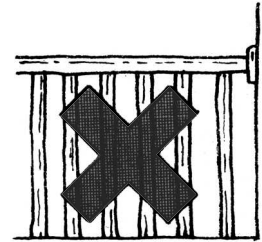
オープン階段手すりユニットを長期間安全にお使いになれるように、また、トラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

危険

業務用や屋外に施工しないこと。
一般家庭の屋内用です。
業務用や屋外、浴室などを使用すると使用頻度オーバー、劣化、変形し破損により落下し、ケガをする恐れがあります。

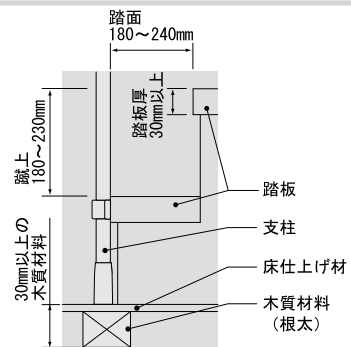


廊下、踊り場、吹き抜け部などの水平部分には取付けしないこと。



警告

- 支柱を取付ける部分には30mm以上の木質材料を使用すること。
- 階段の踏面は180~240mmの範囲であること。
- 階段の蹴上は180~230mmの範囲であること。
- 踏み板段鼻部分がR形状階段には、絶対に取付けないでください。



注意

手すり部分の取付けは、ぐらつきや、脱落のないようしっかりと固定すること。
手すり部材がぐらついたり、脱落すると落下事故の発生する恐れがあります。

手すりに上がったリブラ下がったりしないこと。
手すりの破損、転落事故の発生する恐れがあります。

危険の定義とシンボルマーク

本施工説明書では『危険』『警告』『注意』を右のような定義で使用しています。

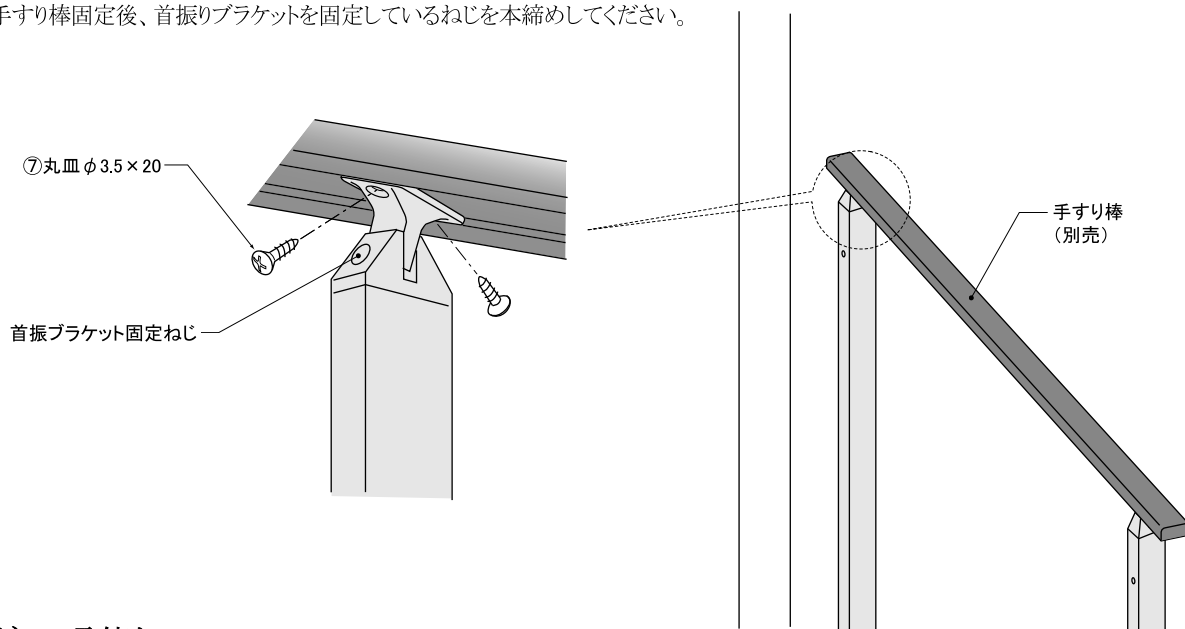
危険 ……取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。

警告 ……取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

注意 ……取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

2. 手すり棒の取付け

- (1) 首振りブラケットを固定しているねじを緩め首振りブラケット部が自由に動く状態にしてください。
- (2) 手すり棒を親支柱の首振りブラケット部分に仮置きし、手すりの寸法出しを行ってください。
- (3) 手すり棒に親支柱の首振りブラケットとねじ止め部に下穴(φ2.5mm)をあけ、手すり棒と首振りブラケット部をねじ(丸皿φ3.5×20mm)止めしてください。
- (4) 手すり棒固定後、首振りブラケットを固定しているねじを本締めしてください。



3. パネルの取付け

- (1) 支柱に面材取付用スペーサー1、2をねじ(ナベM5×12)で仮固定してください。
- (2) 面材取付用スペーサー1、2に面材緩衝材スペーサーをはめ込んでください。(方向性あり。下図※印参照)
- (3) セットキャップボルトに面材緩衝ゴム用ワッシャ(鉄製)、面材緩衝ゴムの順番にはめ込み下図の様にパネルを挟み込みボルトを仮固定してください。
- (4) パネルと支柱のすき間を見ながら位置調整をしねじ(ナベM5×12)、セットキャップボルトを本締めしてください。
- (5) セットキャップボルトにセットキャップカバーを取付けてください。

